

## 田面に施用したくず大豆の水稲への肥料効果

古川農業試験場

### 1 取り上げた理由

有機栽培等を実践している農家では移植後にくず大豆の田面施用を行う事例が多くみられる。

くず大豆の田面施用は抑草効果を期待して行われることから、施用量の基準が明確ではなく、肥料効果についても考慮されていなかったが、実証試験により肥料効果、玄米品質への影響を確認したので参考資料とする。

### 2 普及情報

- 1) くず大豆の田面施用の施肥効果は施用量10アール当たり50kgまでは認められないが、10アール当たり50kg以上の施用では、くず大豆10kgにつき精玄米約10kgに相当する(図1)。
- 2) くず大豆の30kgの窒素肥効は化学肥料窒素換算でおよそ1kgに相当する(図1)。
- 3) くず大豆を多く施用すると、水稲の窒素吸収は生育後半に多く(図2)なり、玄米タンパク含量も施用量が多いほど高まる(図3)ので、多施用に注意が必要である。

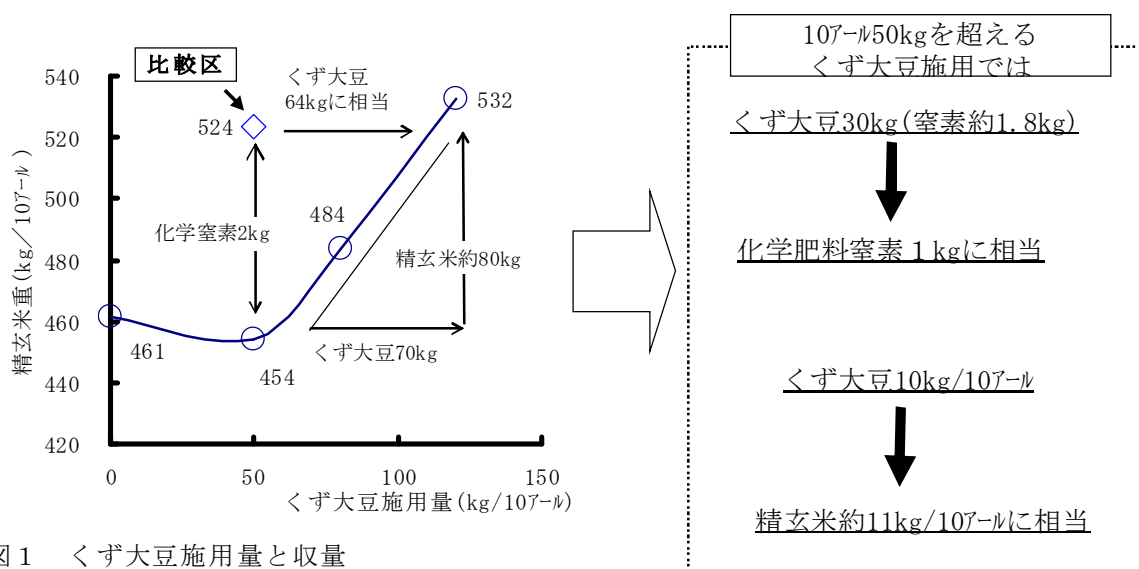


図1 くず大豆施用量と収量

### 3 利活用の留意点

- 1) 有機栽培及び化学肥料・農薬削減栽培等に適用
- 2) 本情報で用いたくず大豆は、穀粒状で散布したもの。粉末処理したものは対象外。

(問い合わせ先：古川農業試験場土壌肥料部 電話0229-26-5107)

#### 4 背景となった主要な試験研究

##### 1) 研究課題名及び研究期間

みやぎの環境にやさしい農産物栽培技術体系の確立－水稲編－（Ⅱ期） 平成16年度

##### 2) 参考データ

表1 耕種概要 (10アール当たり)

試験区	くず大豆施用量：無施用，50，80，120(kg)
比較区	くず大豆50kg＋化学肥料窒素2kg

※いずれの区にも豚ふんたい肥300kg施用  
 ※5月11日移植、くず大豆散布5月18日（散布後深水管理）  
 ※供試品種：ひとめぼれ，土壤タイプ：灰色低地土

表2 供試資材

くず大豆	窒素含量6.0%
豚ふんたい肥	窒素含量0.9%

平成15年産、品種混合

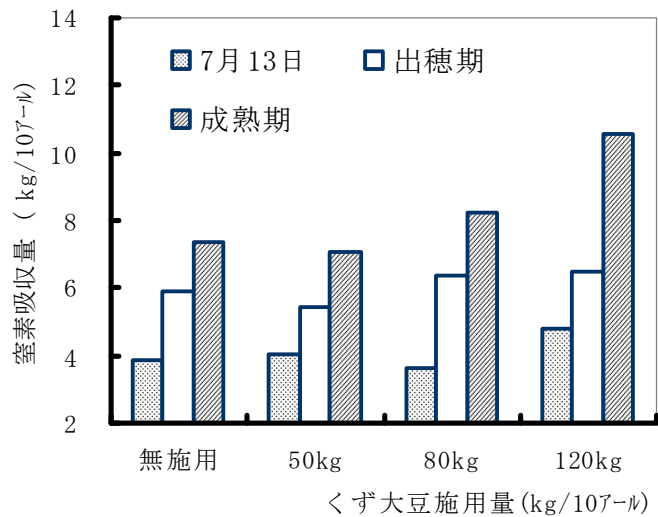


図2 生育時期別窒素吸収量の比較

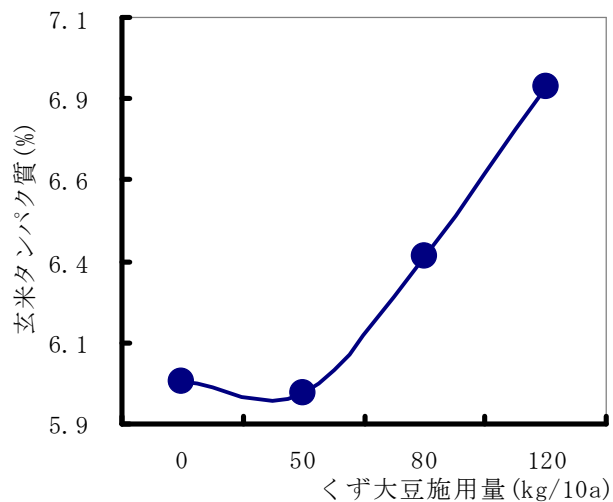


図3 くず大豆施用量と玄米タンパク

##### 3) 発表論文等 なし